

特集 防災

女性の視点で 災害対応力の強化を

令和5年は関東大震災発生から100年という節目の年でした。防災や減災についてメディアで取り上げられ、備えや助け合いなど、地域や行政の取り組みが紹介されました。

こうした取り組みのきっかけとなった災害が、平成7年1月17日兵庫県で発生した阪神・淡路大震災といわれています。観測史上初となる震度7を記録したこの地震は、都市部の直下型地震であったため、建物の倒壊や火災による被害は甚大なものとなりました。テレビ・ラジオなどで惨状を知り、たくさんの方々がボランティアが現地に集まりました。そのためこの年はボランティア元年と呼ばれるようになるのですが、ボランティアの受け入れ態勢や避難所の環境などの課題が浮き彫りになりました。その後、法整備や環境の見直しなどが進められています。



近年は、地域コミュニティが防災・減災において重要であるといわれています。さらに地域での防火・防災に関する活動で、災害時に女性と男性が受ける影響の違いについて、十分に配慮できる女性リーダーも求められています。

地域をつなぐ役割を担う女性リーダー

市コミュニティセンター「矢田部ふれあい館」には、女性で防災士の資格を取得した太田さんが勤務しています。矢田部ふれあい館には、地域の安全・安心対策や地域住民との交流、健康づくり、イベントなどさまざまな活動を行っている矢田部・土合地域コミュニティ協議会の事務局があり、職員がそれぞれの活動をサポートしています。ここでは、防災士として活躍する太田さんに、地域の防災について話を伺いました。



防災士 太田さん
ろうと思った
きっかけは、
矢田部ふれ
あい館で開催さ
れた防犯・防

防災講習会に出席し、防災士という資格があることを知ったことです。コロナ禍での講義や実技は大変でしたが、神栖市防災士育成事業補助金という制度を活用し、経済的な負担も少なく取得することができました。

神栖市防災士育成事業補助金



矢田部ふれあい館に勤務しているので、さまざまなコミュニティと関わることで災害時の避難活動・避難所運営をスムーズに行うことができるのではないかと思います。当該地区の避難所は矢田部ふれあい館近くの教育センターです。コミュニティセンターの一員として私が大切にしていることは、地域や利用者と共に安全・安心そして健やかに過ごせる地域づくりのために、皆さんと共に学び貢献することだと考えています。



矢田部ふれあい館 外観



防災講習会



館庭

防災士とは

「自助」「共助」「協働」を原則として、社会のさまざまな場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人です。

防災士基本理念

- 一 自助・自分の命は自分で守る。
- 二 共助・地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ。
- 三 協働・市民、企業、自治体、防災機関等が協力して活動する。

防災・復興ガイドライン

内閣府では、災害対応力を強化する女性の視点から男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドラインが作成されています。

そこには以下のような7つの基本方針があります。

- (1) 平時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
- (2) 女性は防災・復興の「主体的な担い手」である
- (3) 災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する
- (4) 男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
- (5) 女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する
- (6) 男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける
- (7) 要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する

(2)の、「女性は防災・復興の『主体的な担い手』である」ということを踏まえ、神栖市からも女性の防災士が増えることを望みます。(太田さん)

★元日に発生した能登半島地震では、地域で運営している避難所に、乳幼児連れの部屋が用意されたという報道が



皆さんは在宅避難をご存じですか？

災害発生後に、家やその周辺、家族の安全が確認できたら、自宅で避難生活を送ることを在宅避難といえます。神栖市でも在宅避難者の支援を行っていますので、避難所で支援物資(食事など)を受け取ることができます。(太田さん)

女性の活躍に期待

避難所運営は、男性がリーダーとして活動することが多いとされていますが、女性が日頃から地域活動を継続的に行うことにより、災害時には女性ならではの支援につながるそうです。取材に協力していただいた太田さんは、同僚の女性職員と共に地域の方々とのコミュニケーションを取っています。これからの活躍に期待したいですね。



矢田部ふれあい館 職員の皆さん

最後に、矢田部ふれあい館 黒沢館長に地域コミュニティ協議会についてお話を伺いました



館長 黒沢さん

個人同士、家族間、地域の人間関係が希薄化していると言われる中、地域コミュニティ協議会は地域住民が集まり、つながることによって知恵を出し、地域の現在、将来の課題を解決し、地域を活性化しようとする組織です。

矢田部・土合地域コミュニティ協議会では、主に4つの部会によってこれらの課題に取り組んでいます。その中でも「防犯・防災部会」では地域住民の安全・安心を守るという観点から、「防災講習会」「交通安全教室」「空き巣・盗難被害対策」などの事業を行ってきました。地域活性化は、治安維持や防犯に大きく役立ちます。そしてなんととっても人と人のつながりは、生活の質を大きく向上させます。一過性のイベントではなく、地域住民を巻き込んだ継続的で地道な活動を続けていきたいと思えます。